資料－８

# 河川整備計画の点検（進捗状況）

## 【指定区間：五所川原圏域・弘前圏域】

平成２６年7月１５日

青　森　県

# ・岩木川水系河川整備計画（県管理区間）の概要（１）

［整備計画策定：平成１９年１２月１０日］
［第1 回変更（弘前圏域）：平成22年10月28日］
［第2 回変更（弘前圏域）：平成26年 3月27日］

## 計画の主旨

本計画は、河川法の三つの目的が総合的に達成できるよう、河川法第16条に基づき、平成17年5月に策定された「岩木川水系河川整備基本方針」に沿って、河川法第16条の二に基づき、当面実施する河川工事の目的、種類、場所等の具体的事項を示す法定計画を定めたものです。

1）**洪水、高潮等による災害発生の防止**
2）**河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持**
3）**河川環境の整備と保全**

※青森県では、岩木川・平川・浅瀬石川の三川合流地点を境に縦断勾配等の河川特性が変化することを踏まえ、合流点の下流を五所川原圏域、上流を弘前圏域と設定しています。
※弘前圏域は、大和沢ダム建設事業の中止及び大和沢川上流工区の整備区間位置付けを受け、平成26年3月27日に変更しました。

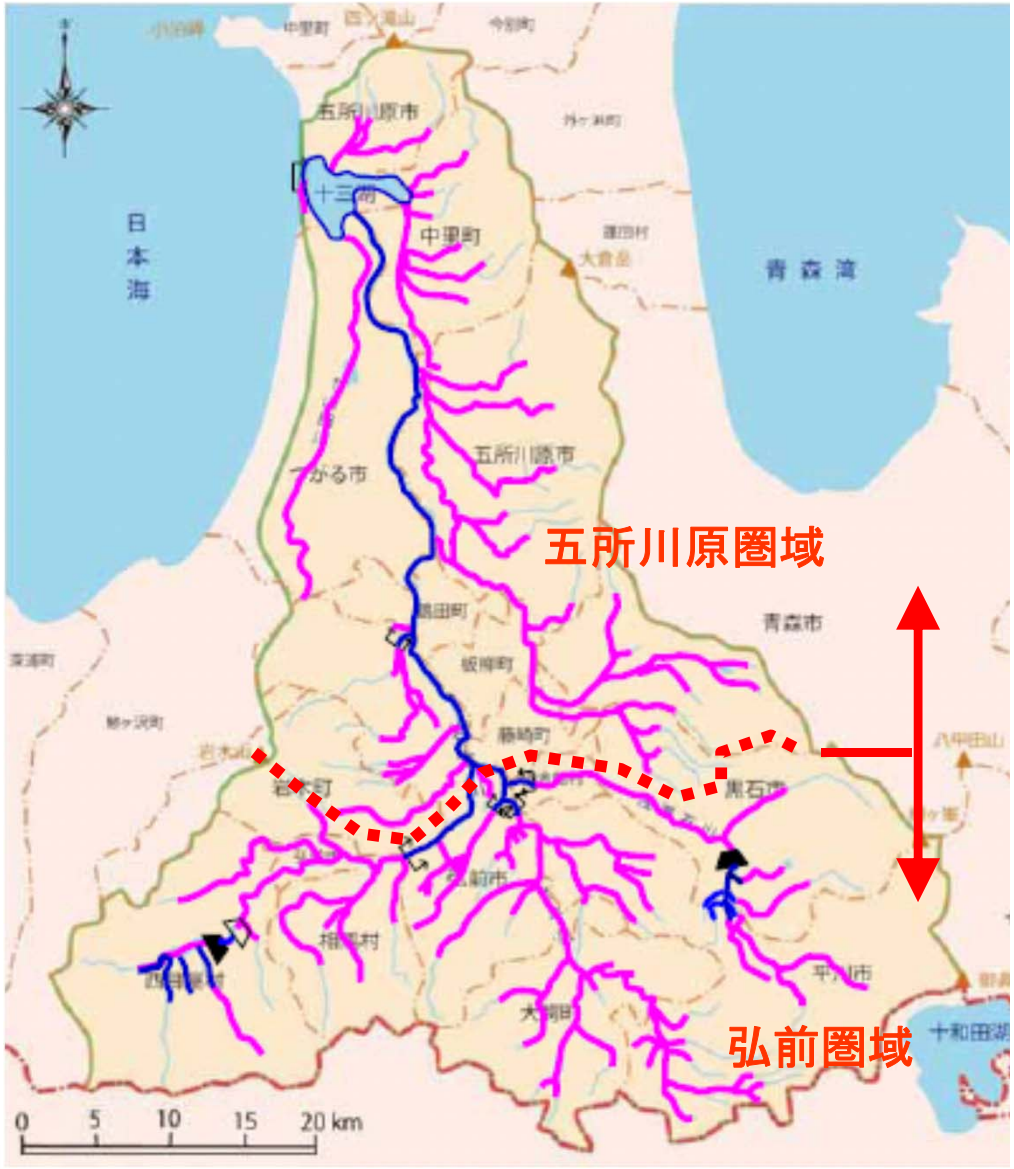
## 計画の対象期間

本計画の対象期間は、**概ね30年間**としています。

※策定後も、河川の整備状況・地域の社会状況・自然状況等の変化や新たな知見・技術の進捗等に伴い、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。

## 計画の対象区間

本計画の対象区間は、**青森県の管理区間である598.96km**を対象とします。




国土交通省管理区間
青森県管理区間

# ・岩木川水系河川整備計画（県管理区間）の概要（２）

計画の基本理念

河川整備基本方針に基づき、岩木川を取り巻く現状を踏まえ、以下の３つの基本理念を整備計画の柱として、関係機関や地域住民との情報共有、連携の強化を図りつつ、治水、利水、環境のバランスの取れた施策を展開します。

**安全・安心の川づくり**

過去の水害や渇水の歴史を踏まえ、**人々が安全に生活し、安心して水の利用ができる川づくり**をめざします。
また、各河川の特性を踏まえた**継続的・効率的な河川の維持管理**に努めます。

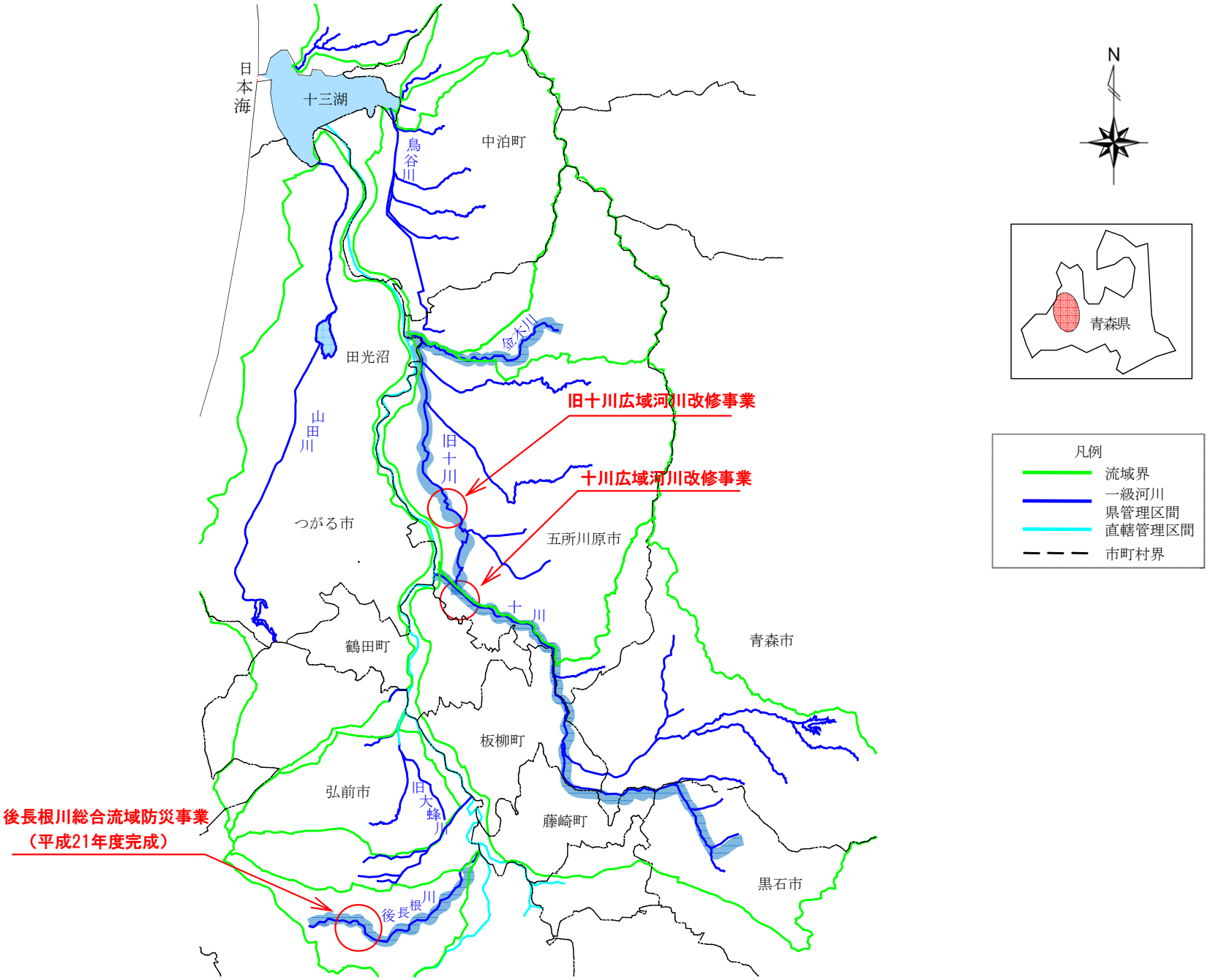
**豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ川づくり**

各河川の持つ**豊かな自然環境や美しい河川景観を保全・創出し、風土に培われた文化とともに、次の世代に引き継ぐことの出来る川づくり**を目指します。
また、「青森県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例」に基づき、県民の参加の下にふるさとの森と川と海を一体的に保全・創造することとします。

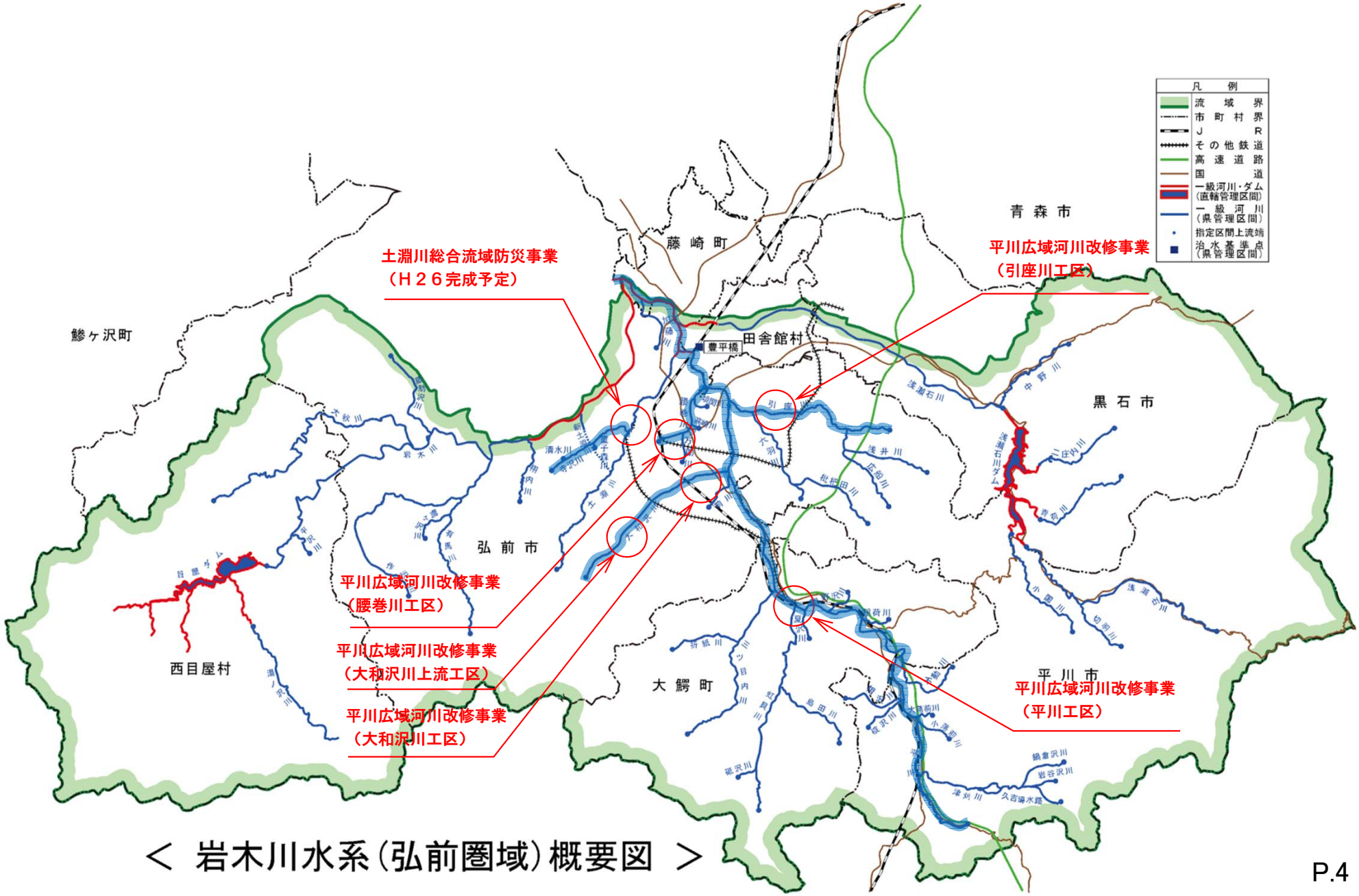
**住民参加と地域連携による川づくり**

人と河川とのかかわり、ふれあいの場を適切に整備・保全していくことにより、**地域が一体となって川のあり方を考える川づくりを目指します。**
また、地域住民の様々な意見を把握し、魅力ある河川が保たれるように努めます。

# ・岩木川水系河川改修事業（五所川原圏域）　位置図



# ・岩木川水系河川改修事業（弘前圏域）　位置図




＜ 岩木川水系（弘前圏域）概要図 ＞

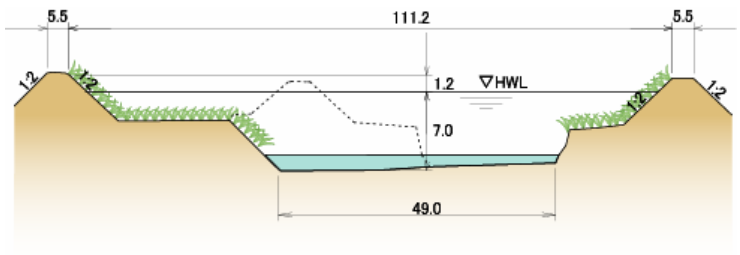
# ・平成２６年度実施状況
# 十川広域河川改修事業

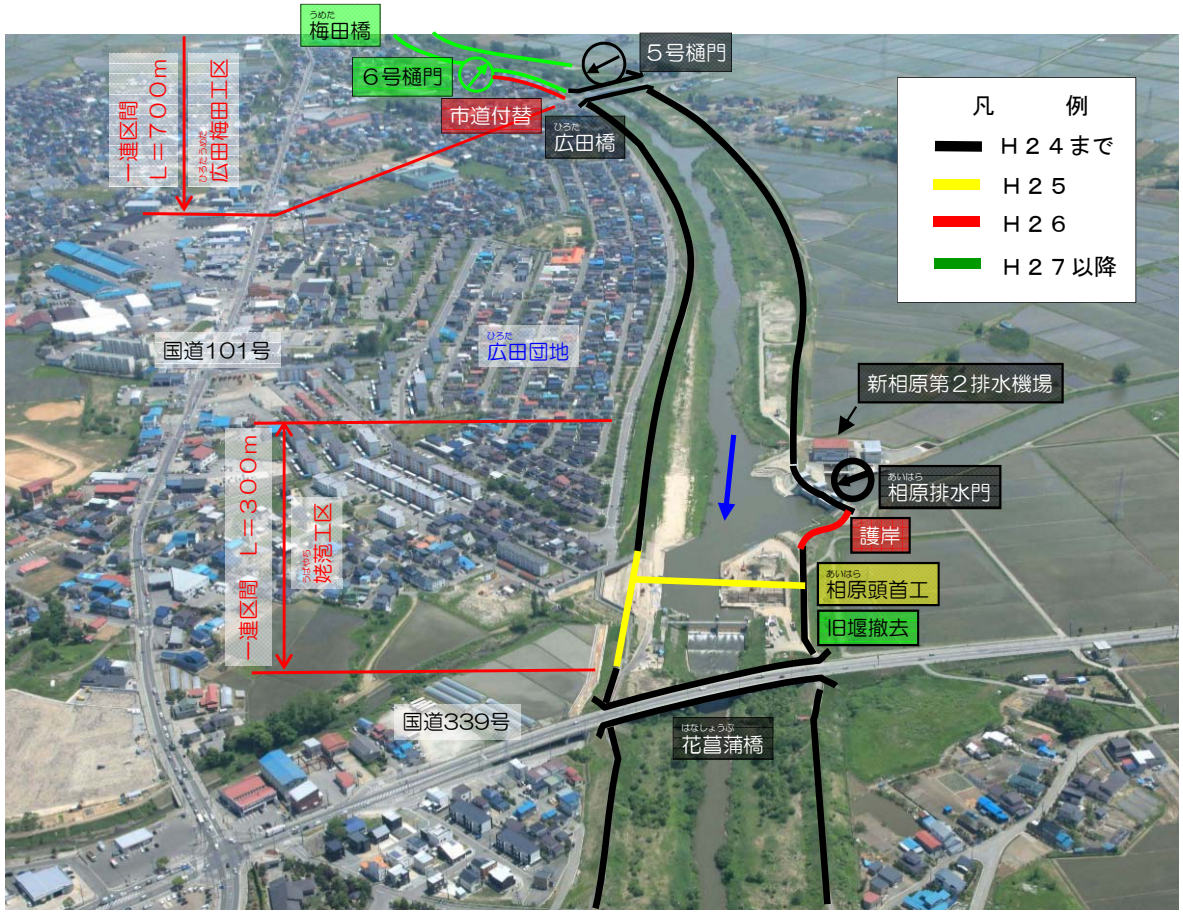
十川は、沿川に住宅団地が造成され資産の集積が著しいものの、現況流下能力は低く、特に昭和５６年の豪雨による洪水で浸水面積１２０haの被害が生じました。

これら浸水被害の解消を図るため、河道の拡幅に伴う相原頭首工の改築を行い、姥菟工区の完成に向け工事を促進するとともに、広田梅田工区の用地補償を行っています。




十川代表横断図



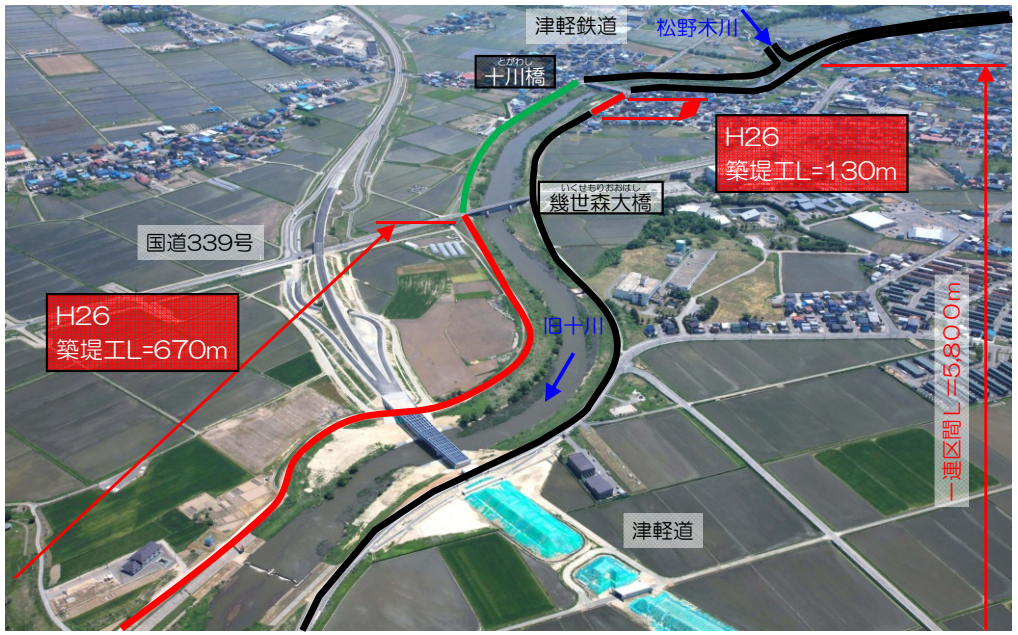



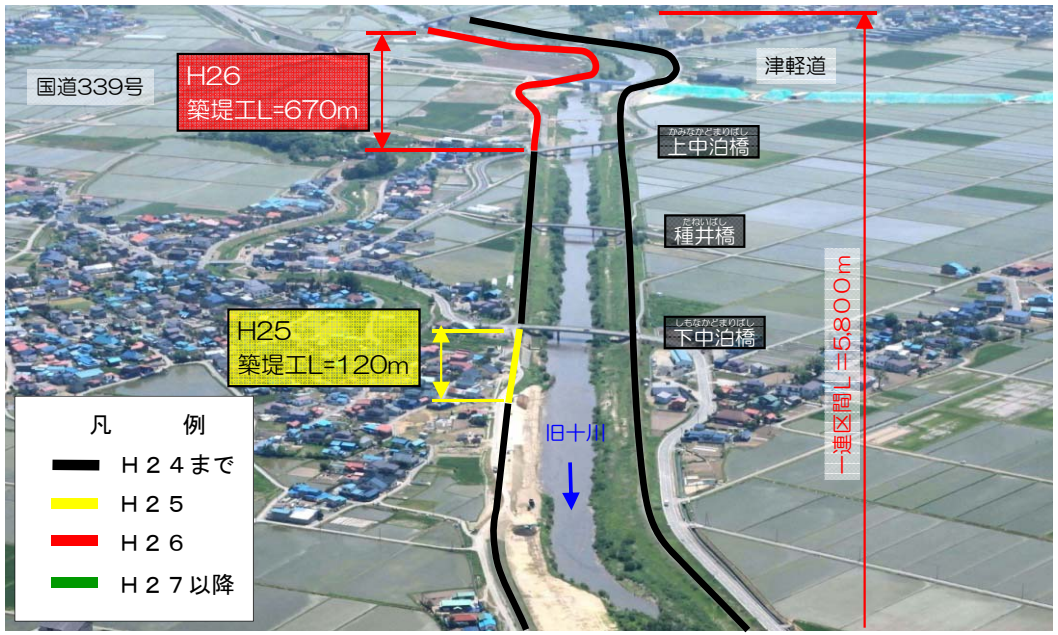
# ・平成２６年度実施状況
# 旧十川広域河川改修事業

旧十川の上流部は、沿川に家屋が連担しているが、流下能力が低く浸水被害が度々発生しています。

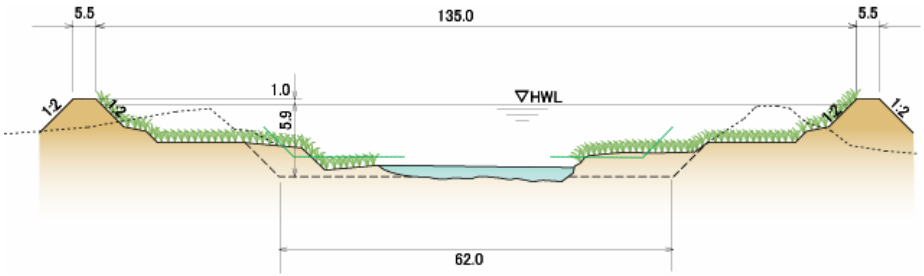
特に平成２年９月の台風１９号による洪水では、床上浸水１２戸、床下浸水１８３戸の甚大な被害が生じました。

これら浸水被害の解消を図るため、堤防の嵩上げを推進しています。




旧十川代表横断図



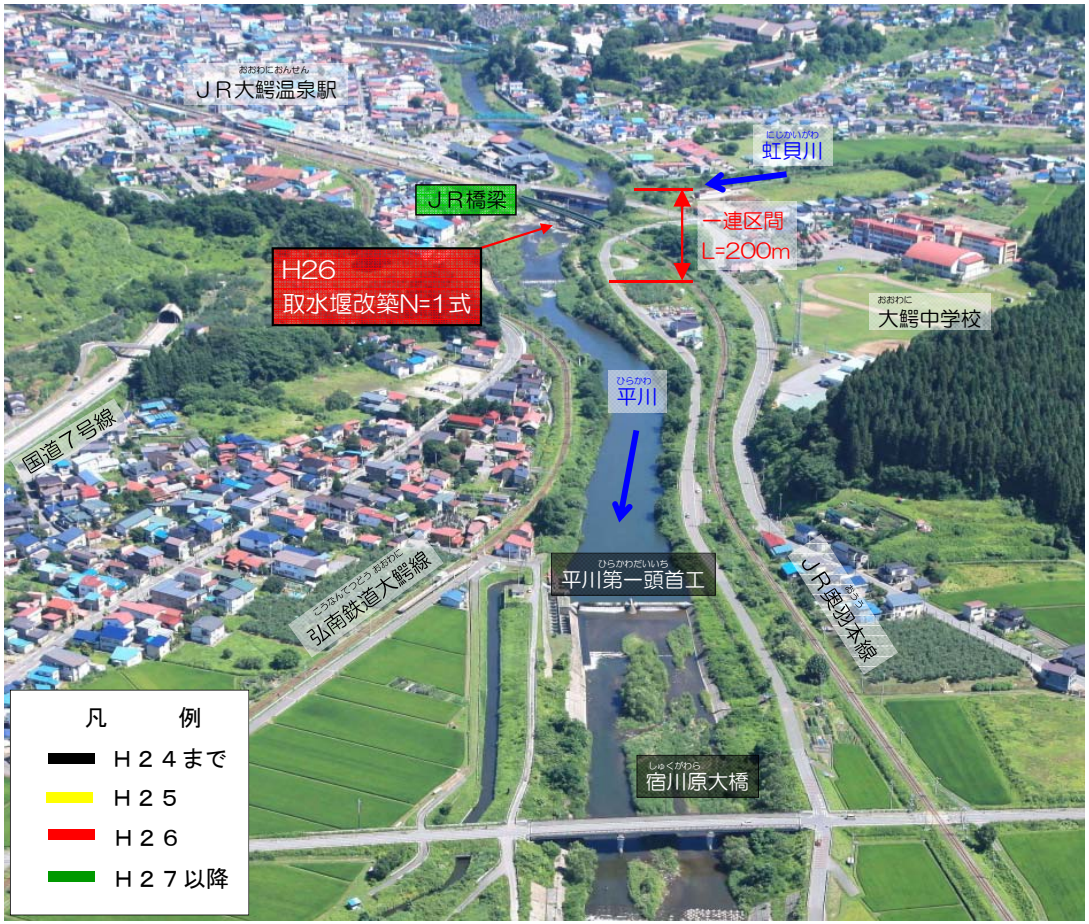



# ・平成２６年度実施状況
## 平川広域河川改修事業【平川・腰巻川】

平川は、沿川に家屋が連坦しており、河道が狭小であるため、床上浸水被害が度々発生し、特に昭和５６年の台風１５号による洪水では、浸水面積１８９ha床上浸水６０戸、床下浸水１８９戸の甚大な被害が生じています。

この浸水被害の解消を図るため、平川工区の最上流部において宿川原堰の改築等を実施します。

また、支川の腰巻川の河川改修を促進するための調査も実施します。

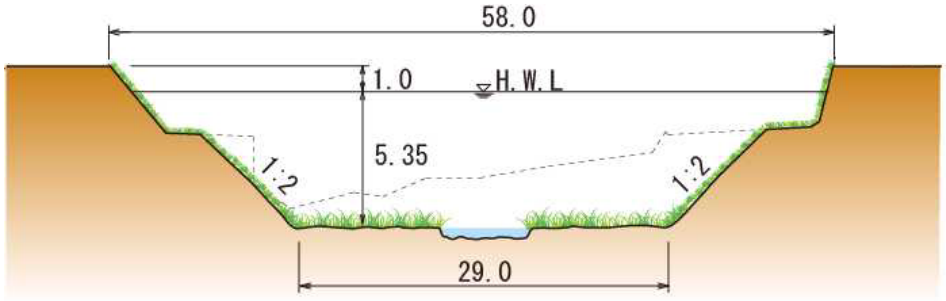








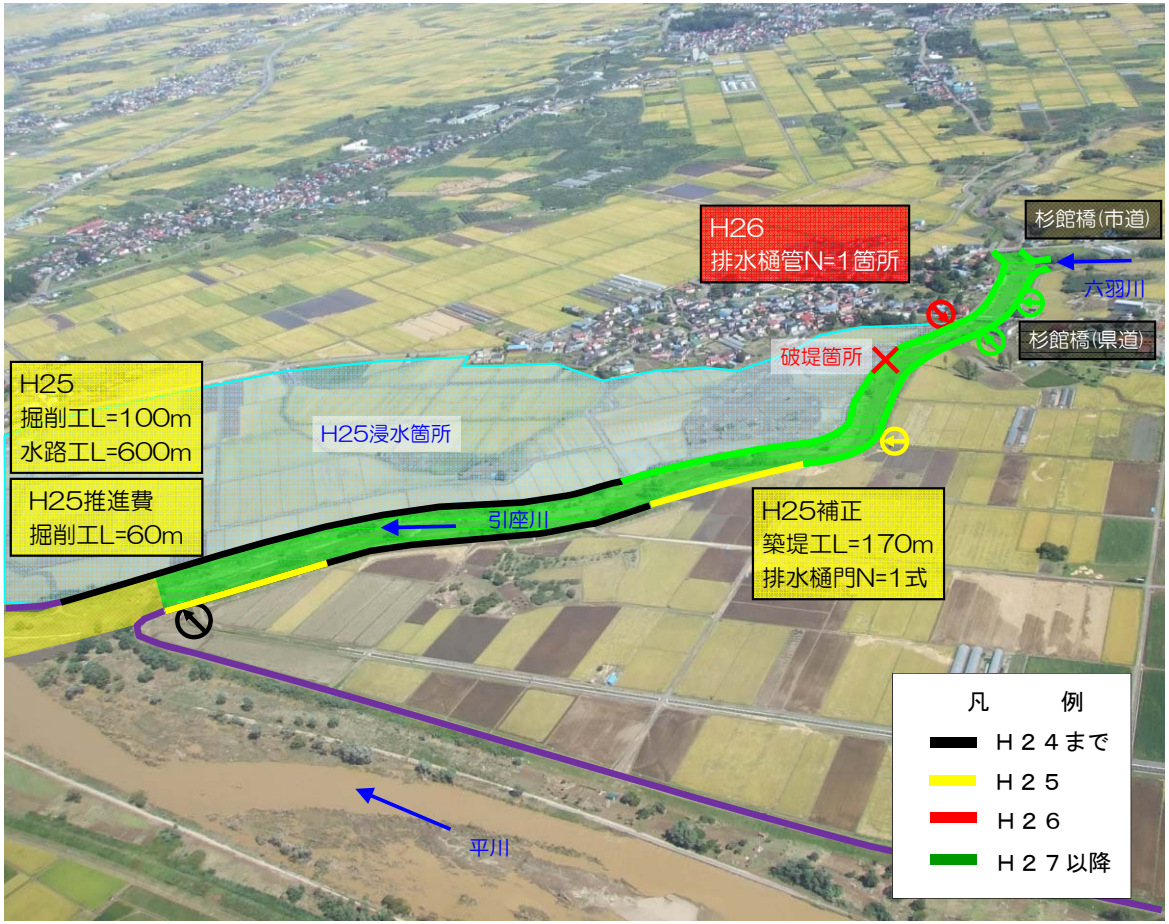

平川工区代表横断図



# ・平成２６年度実施状況
## 平川広域河川改修事業【引座川】

平川の支川である引座川では、本川背水区間の築堤高が不足しているとともに、現況流下能力も低いため、平成25年９月１６日の台風１８号により、堤防の一部が破堤し、家屋と農地に浸水被害が発生しました。

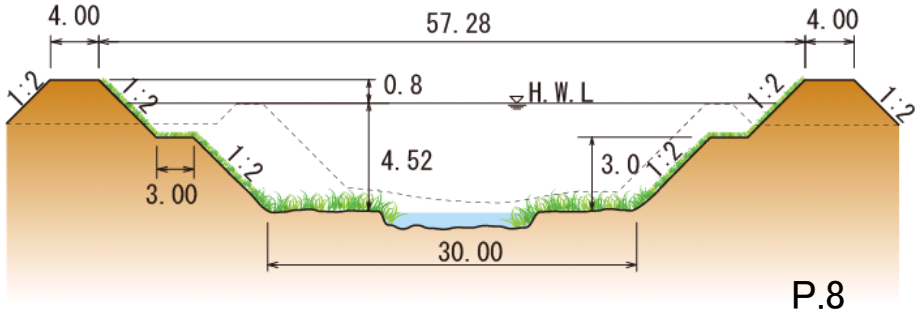
当該箇所は「平川広域河川改修事業（引座川工区）」に含まれているため、「H25補正予算」や「災害対策等緊急事業推進費」も活用して事業を進捗し、再度災害の防止を図ります。







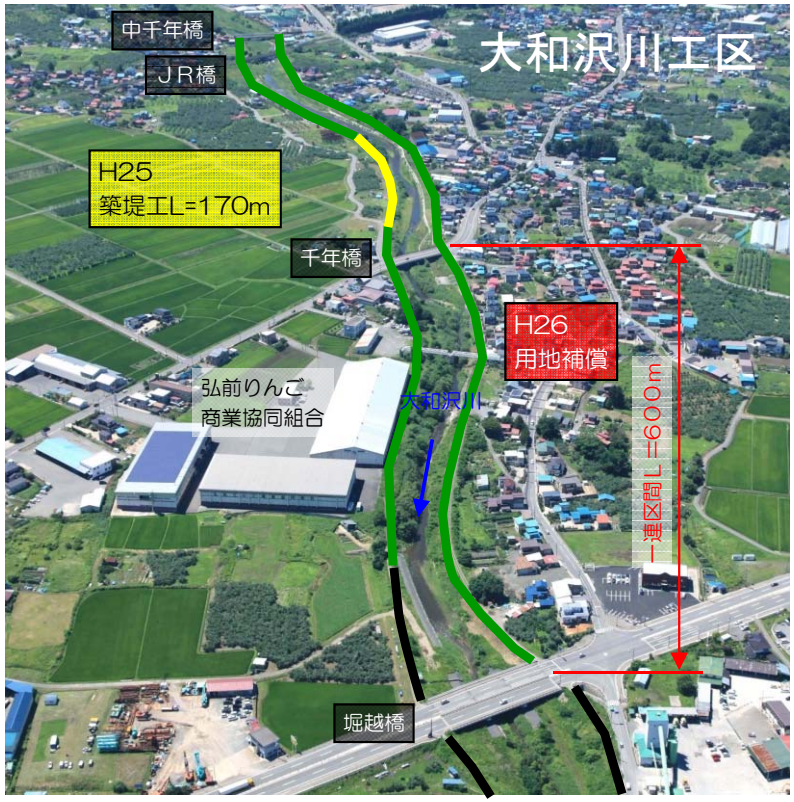
引座川工区代表横断図



# ・平成２６年度実施状況
## 平川広域河川改修事業【大和沢川、大和沢川上流】

平川の支川である大和沢川では、昭和50年、52年と立て続けに洪水による被害が発生し、沿川の宅地化が進んだ現在でも流下能力が低いため、洪水被害が懸念されており、平成25年９月１６日の台風１８号では、護岸の一部が欠壊し、家屋と農地に浸水被害が発生しました。

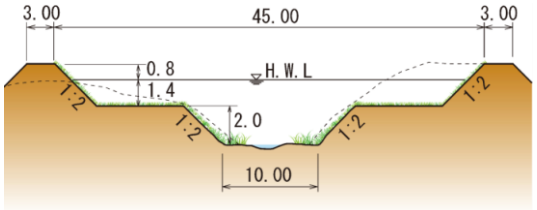
当該箇所は「平川広域河川改修事業（大和沢川上流工区）」に含まれているため、「災害対策等緊急事業推進費」も活用して事業を進捗し、再度災害の防止を図ります。







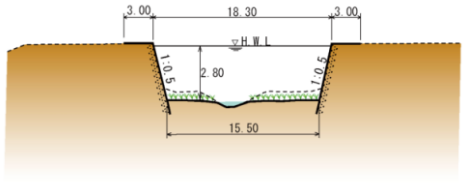
大和沢川工区代表横断図







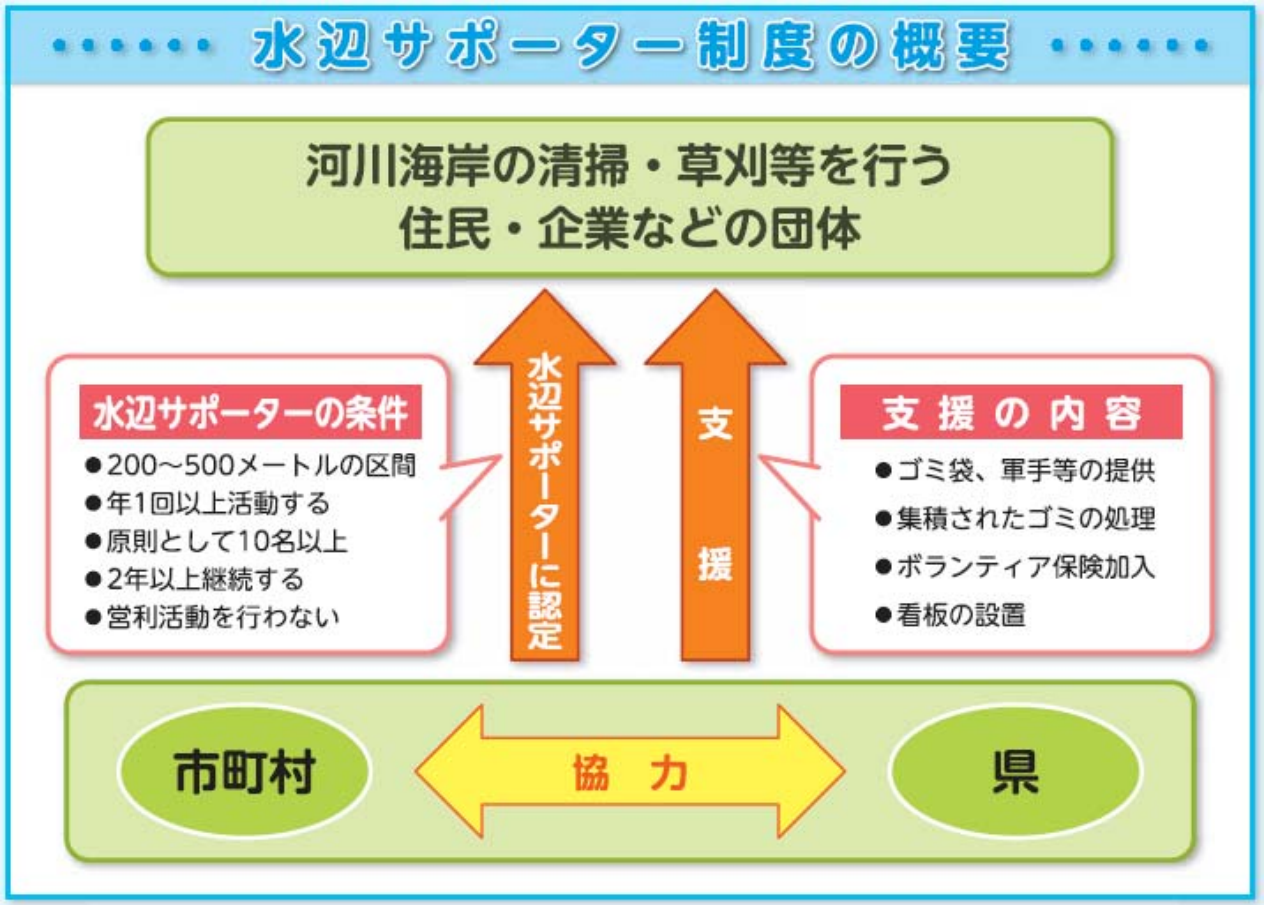
大和沢川上流工区代表横断図



# ・平成２６年度　住民参加と地域との連携

## ふるさとの水辺サポーター制度

〇河川や海岸の一定区間について、住民や企業といった団体の自発的なボランティアを募集し、
　これらの団体に河川・海岸の「サポーター」となっていただく制度。
〇岩木川水系では、３８団体が認定され、清掃・除草等の美化活動を行っています。





十川


土淵川